

# SDG 景観レポート、ICT 教育、観光教育を考える

酒井 喜八郎

## はじめに

大学の子ども教育学科で、私は主に3つの教育実践（1. SDG s 景観レポートの実践、2. ICT 教育の実践、3. 観光教育の実践）を行っている。2022 年度の実践を紹介する。

## I 3つの取り組みについて

### 1 SDG s 景観レポートの実践

SDG s 景観レポートの課題を、赴任以来、教科教育法「社会」で、子ども教育学科の学生たちに対して実施し、8 年経過した。今回のオープンキャンパスの模擬授業(2023.3.26)では、授業を、次のような流れで実施した。前半、筆者の研究の関心(社会認識教育学、教育方法学)について話をした。次に、後半では、探究する子どもスペシャリストを目指す南九大の学生たちが小学校社会科の授業設計力をつけるために、毎年、講義の課題として作成している「SDG s 景観レポート」を、参加者の高校生たちが実際に相互評価シートに記入し評価するアクティビティをしてみた。

まず、高校生たちに、昨年度までの子ども学科の学生たちのSDGsの景観レポート作品を70点紹介した。以下に、5つの秀逸な作品例を掲載する。

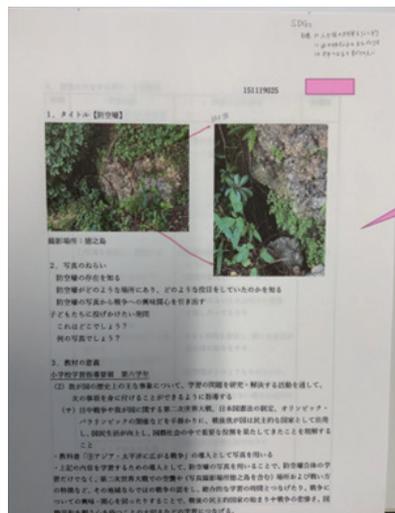
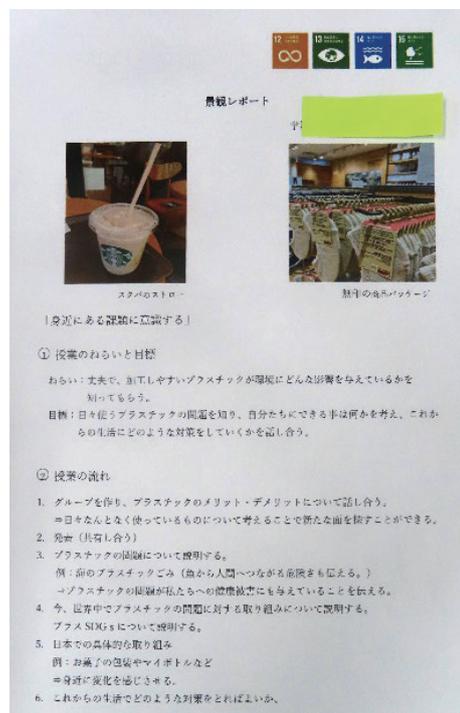
#### ①ガマ(徳之島)・学生Aさん

学生Tさんは、故郷の徳之島にあるガマに着目した。ガマとは自然にできた洞窟のことであるが、戦時中には、防空壕として転用された。ガマは、小学校6年生の歴史教科書にも少し出てくるが、あまり知られていない。この景観写真レポ

ートは、SDG s 16の目標の平和について考える上で意義がある。

#### ②スタバのストロー(宮崎)・3年Bさん

学生Bさんは、スタバのストローが、これまでのプラスチックから紙のストローに変わったことに着目し、プラスチック問題を考えるSDG sの「つくる責任、つかう責任」の授業を構想した。



徳之島の防空壕の景観に着目 SDG sの目標：平和

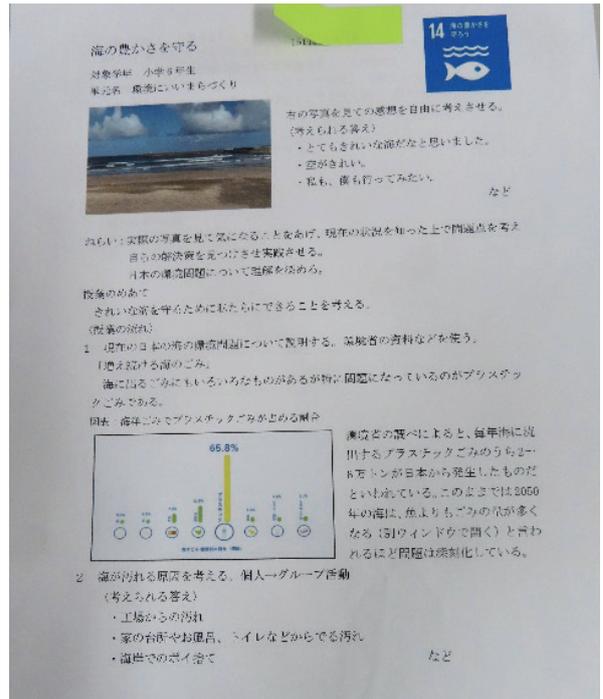
③震災で被害を受けた熊本城の修復・・・学生Cさん

学生Cさんは、震災で被害を受けた熊本城の修復工事による熊本城復興の様子についてレポートしてきた。2016年(平成28年)に、熊本大地震が起こり、熊本城の石垣が崩壊した。Cさんは、防災問題について考える授業づくりを考えた。



④ソーラーパネル(都城)・・・学生Dさん

学生Dさんは、エネルギー問題について考える授業を提案した。都城にあるソーラーパネルに着目した。宮崎県は、日照時間が長いので、ソーラーパネルの設置数は日本一である。



⑤海のプラスチックごみ問題・・・学生Eさん

学生Eさんは、海のプラスチックごみ問題について、具体的なグラフ資料を用いて考える授業の流れを考えた。

2 オープンキャンパスでの模擬授業での高校生の相互評価の結果と感想

オープンキャンパスで模擬授業を受講したSDGs 景観レポートの高校生の相互評価の結果と感想は次のとおりである、

(1) 得票数の多かった景観レポート

表1：得票数の多かった景観レポート

子どもの貧困について・・・3、 食品ロス・・・1、 自然の豊かさを守ろう!・・・1、 海の豊かさを守ろう!・・・1、 ポイ捨て・・・1、 気候変動・・・2、 ジェンダー・・・1 食料問題・・・2、 多様性・・・1、 差別・・・1、 平和・・・1、 全部・・・1
---

表1にあるように、南九大生が作成したレポートの中で、得票数が多かったのは、SDGs17の目標のうち、貧困、気候変動、食料問題、差別、平和などをテーマにした景観レポートであった。

(2) 高校生の感想

表2は、当日オープンキャンパスの模擬授業に参加した高校生の景観レポートの感想である。

表2 高校生の感想

1	・今回の社会科 SDG s は将来的に関わる課題のことばかりですごくためになりました。また、機会があれば、ネットなどで調べ詳しく知識として取り入れたいです。(日南高校 I さん)
2	・南九大への興味が深まり、私も授業を受けてみたいと思いました。(日南高校 G さん)
3	・いろいろな課題があるのだと思いました。(高城高校 I さん)
4	・たくさんの方のレポートを見ることができてふだん調べていだけでは見られないので、うれしかったです。SDG s にも興味があるので良かったです。(都城農業高校 K さん)
5	パソコンを使ってグラフや写真を用いてまとめていたことがすごいと思いました、学校の授業でエクセルをしたけど、本当に難しかったです。でも先輩方のような自分で調べて自分でレポートにまとめられるような技術を身に着けたいと思いました。(宮崎日大高校 L さん)
6	実際に先輩方のレポートを見てすごくわかりやすくまとめていてすごいなと思いました。小学校でもこんなに難しい内容を勉強すると思うとすごいです。(都城商業高校 A さん)
7	小学生に教えるのはとても難しいと思います。けど、レポートにはとてもわかりやすくまとめてあってすごいと思いました。授業の進め方やグループで話し合う時間を作っているのがとても良いと思いました。SDGs を少しでも理解していけるように私自身も頑張りたいと思います。(都城農業高校 C さん)
8	・SDG s について調べてそれを子どもに教えるってすごいと思いました。今までは「調べる」で終わっていたけど、「伝える」立場で考えることもできるようになればこれからの未来への力になれると思いました。(宮崎農業高校 T さん)
9	・レポートにそれぞれの意図があり、また写真をつけることにより、イメージをふくらませることができて良かった。(飯野高校 Y さん)
10	・それぞれがみんな分かりやすいようにまとめていて、少し難しい内容もあったけど、とても楽しく活動できました。もっと詳しく調べたい内容も多数ありました。(都城聖ドミニコ学園 N さん)
11	・自分で身近なことから課題を見つけて、自主的に活動することで社会科への関心を高められていいなと思った。(聖ドミニコ学園高校 H さん)
12	・もう少し長い時間見たかった。一人ひとり分かりやすくまとめてあってすごかったです。(聖ドミニコ学園高校 T さん)
13	・様々な課題の問題について詳しく調べてあり、とても見やすく分かりやすかった。(聖ドミニコ学園高校 N さん)
14	・私が在学している学校では、SDGs 探究について力を入れているので、先輩方のレポートを見て、高校生の視点ではない部分から探究していたので参考になった。(都城西高校 S さん)
15	・SDGs について高校でもしているの、わかりやすく生かしていきなと思いました。(小林高校 F さん)
16	・SDG s についてのレポートをたくさん見て、学校で習っている SDG s の内容を深掘し応用したのがあり、どれも小学生が分かるような内容になっていました。身近な課題などを使い、分かりやすいように工夫を凝らしていて良かったと思います。(宮崎農業高校 H さん)

### 3 考察

景観レポートづくりは、つくるだけでなく、相互評価することが重要である。感想にもあるように、想像以上に、高校生たちに好評であった。「南九大への興味が深まり、私も授業を受けてみたい

と思いました。」(日南高校 B さん)

日南高校 B さんの感想にあるように、「南九大への興味が深まり、私も授業を受けてみたい」という感想が出てきたのは良かったと考える。

「SDGs 探究について力を入れているので、先

輩方のレポートを見て、高校生の視点ではない部分から探究していたので参考になった。」(都城西高校 K さん)

K さんの感想にある「高校生の視点ではない部分」、というのは「授業者」という視点である。

今回、実際に高校生に対して SDGs の景観レポートを実施してみて、高校生の SDGs の関心の高さがうかがえた。また、高校で SDGs について学んではあるものの、SDGs について調べる活動に終始しており、大学のように、SDGs を小学校教師の授業づくり、という視点から、授業の目標と授業の流れを考えて SDGs の授業づくりをする点が、高校生にとって新鮮であることがわかった。

## II ICT 教育「紙の教科書か？デジタル教科書か？」の実践

### 1 実践の概要

この ICT 教育の実践は、2 年目となった。2021 年度学長裁量費で、「ICT 教育の導入とデジタル教科書の活用」というテーマでおこなった。今年度は、さらに、発展させ、学生主体で、ICT 教育やデジタル教科書の是非について議論できないか、と考えた。

ゼミ生たちは、「紙の教科書か？デジタル教科書か？」充分議論した後、論点を整理して、スライドにまとめていった。さらに、具体的に、社会科学教科書の「三権分立」の単元で、デジタル教科書と紙の教科書でどのような授業実践ができるかを発表して、メリット・デメリットについて考察した。



写真2 酒井ゼミの2年学生たちの取り組み

ゼミの学生たちは、発表に向けてプレゼンに向けて、真剣に取り組んだ。

### 2 プレゼン発表の様子

写真3は、他ゼミとの交流会でのゼミの2年学生たちの発表の様子である。



写真3 ゼミ交流会での紙とデジタル教科書についての発表

### 3 ゼミ生の感想と考察

プレゼン発表が終わった後の学生の感想は次のとおりである。

K さんの感想

個別ゼミを通して、現在の事(社会問題)についてみんなで話し合いをしたり、先生が用意してくださった資料(例えば、紙とデジタル教科書どちらがよいか?)を読んだりすることができ、これまで以上に教育について関心を持つことができました。特に、印象的だったこととして、毎回の活動を行う際にみんなで感想を言い合ったり、友達の発表に対して意見を述べたりしたことが挙げられます。ただ単に、話し合いや活動を行うだけではなく、みんなの感想等を聴くことで、みんなそれぞれの活動から得られたことは違うことに気づき、様々な視点から活動を捉えることに繋がりました。先生を含めたみんなで、話し合いをしたり、活動したりと楽しくゼミを行うことができたため、良かったです。

## III 観光教育の実践

1年ゼミ生に対してはSDGs観光教育の取り組みを行った。

観光教育が、近年注目されるようになってきた背景には、わが国で、2007年(平成19年)の観光立国推進基本法の施行されたことにより、地域を活かした主体的な取り組みを尊重し、地域住民が誇りと愛着を持ち、地域社会の持続可能な発展を目指すための取り組みが不可欠な重要課題と位置付けているからである。

観光庁と玉川大学の寺本潔氏が作成した学校向け配布用パンフレットを使って、観光教育の概要

について、学んでいった。

特に、1年生のYさんは、「宮崎のおすすめ観光スポット」、Gさんは、「なぜ、イースター島のモアイ像が宮崎にあるか?」についてプレゼンをした。観光資源という考え方は、地域（ふるさと）の再発見にもつながるので、今後、さらに学生たちが、宮崎や都城の良さを再発見するように授業でも取り組んでいきたい。

## おわりに

教科教育法社会の景観レポートもこの8年で、多くの視点からの作品が蓄積された。今後は、SDGs教育やICT教育、観光教育の3つを組み合わせることでいくことが課題である。

今回、オープンキャンパスの模擬授業で、高校生に対して、南九大子ども教育学科の学生たちが作成したSDGs景観レポートの相互評価をアクティビティとして実施してみて、大学生だけでなく、高校生にも好評であることがわかった。その理由は、表2に示したように、高校までにSDGsについて少し学んだり調べてはいるものの、高校生にとって、このような教師側の立場でSDGsの視点から景観写真によるビジュアルな小学校社会科授業づくりに大学の子ども教育学科で取り組んでいることが新鮮であったためと考えられる。

今後、教員を目指す高校生に対しても、このようなSDGsの視点からの景観写真による社会科授業づくりを普及させていきたいと考える。また、「紙の教科書か、デジタル教科書か?」という話し合いも、大変盛り上がったので、今後、2024年度から大きく変化する学校現場でのQRコードを多く含む新しい紙教科書とデジタル教科書との併用についても研究し、ふだんの講義でも取り上げて指導していきたい。

今後は、この3つのプロジェクト（景観レポート、ICT教育、観光教育）を、かけあわせて、最近の教育系大学や学校現場が直面する教育問題の解決のために、授業やゼミでの教育活動をより一層推進していきたいと考える。

## 〈参考文献など〉

酒井喜八郎（2016）「大学での社会科教育法のアクティブラーニング授業－景観レポートと地図帳活用に焦点を当てて－」山口幸男編『地理教育研究の新展開』全国地理教育学会，古今書院 pp.251-261

酒井喜八郎（2022）「大学でのプログラミング学習導入とデジタル教科書の活用について」『南九州大学人間発達研究紀要』 Vol.12, pp.55-57

酒井喜八郎（2021）「SDGsの視点からの観光教育としての社会科地理授業づくり～宮崎県を事例にして～」全国地理教育学会（オンライン開催）

酒井喜八郎（2022）「SDGs 観光教育としての小学校社会科地理の授業設計 ～身近な宮崎からグローバルスケールまで～」日本地理教育学会第72回大会（ズーム）発表

寺本潔他（2022）『観光でまちを元気に！日本・ふるさと再発見』公益財団法人日本観光振興協会